



南三陸311メモリアル

防災ネットワークしもすわでは、令和5年11月18・19日、南三陸町、気仙沼市にて被災地研修を行いました。研修の目玉として、197世帯中190世帯が津波で流された南三陸町中瀬区、佐藤徳郎元区長から当時の様子を伺いました。



復興のカギは道路

うちの区の消防団員の一人が、いち早く津波を逃れたユンボ(油圧ショベル)にトラックから軽油を抜いて入れ、そいつで瓦礫を撤去して道を造った。そのおかげで支援がいち早く入ったんだと思う。人や物資を運ぶ道を通すことは何より大事だね。



平等を貫く

着の身着のまま避難したから何も無い。何も無いからこそ、支援物資の配布には気を遣った。



ある日トラックに日常生活用品を積んできた支援者が来て「被災者の人達が自分で見て、必要な物を選んで欲しい」と言うから、ダメだと断った。こちらで一旦お預かりして、不公平がないように配る。今ここに居ない人もいるから、その人に渡らない物資は困ると言ったら怒って帰り、後日各方面から「傲慢区長」と批判された。何を言われようが平等でないと、いつか不満が爆発する。誰に何を言われようが俺はそれを貫いた。

女性のニーズ

ある日避難所で若い女性が、化粧品が欲しいと言ってきた。俺は「この非常時に化粧品なんか」と断った。なぜ、こんな時に化粧する必要があるのか俺にはわからなかった。やっぱり女性のことは女性にしかわからないよな。

コミュニティ再構築の難しさ

うちの区は登米市へ避難して、そのまま定住する人が多かった。登米市で働く場所を得たら戻ってこないよな。一度ばらばらになったらコミュニティの再構築は難しい。



地域を守る消防団員

おかげさまで、うちの区では消防団員の犠牲者は出ていない。その時の班長が「防潮堤の方へは行くな。避難誘導優先!」と指示したのが良かったと思う。なかなか避難に応じない人もいて、震災後、当時消防団員だったうちの息子は、寝ぼけて隣で寝ている人の腕をつかんで何度もひっぱっていたらしい。

消防団員の若い尊い命を失わなかったことは、本当に幸いだった。消防団員入団の勧誘は、ここでは区長の大切な仕事。地域を守るためにも、これからも消防団には頑張ってもらいたいね。



防災士 あなたも防災士の資格を取得しませんか?

防災士の資格を取得し、防災ネットワークしもすわのメンバーとして活躍してくれる方を募集しています。防災士資格取得費用の補助もしております。詳細はお問合せください。

★お問い合わせ先

◎下諏訪町総務課危機管理室 ☎0266-27-1111(代表) ◎防災ネットワークしもすわ事務局 shimosuwabousai.jm@gmail.com



【編集・発行】 防災ネットワークしもすわ 〒393-8501 諏訪郡下諏訪町4613番地8 下諏訪町総務課危機管理室内 TEL.0266-27-1111(代表)

令和6年「能登半島地震」から学ぶトイレの備え

のどかな正月風景を一変させた能登半島地震。その後の避難所運営も停電や断水、道路状況の劣悪さから思うような支援が入れずに困難を極めました。その報道を見て、もし下諏訪町に同等の自然災害が発生したらと、震えました。

そこで、災害時のトイレ対策をおさらいしましょう。

下諏訪町 災害時のごみ出しガイド

災害時のごみ出しについてはQRコードよりウェブサイトへアクセスしてご確認ください。



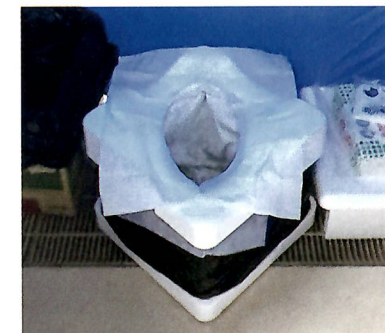
1 (在宅避難) 家屋は損傷被害を免れたが上下水道は機能しない場合

45リットルのビニール袋を便器にかぶせて、便座を降ろします。その中に小さな袋やおむつなどを敷き、用をたしたら凝固剤でかため口をしぼって燃やすゴミとして保管する。(下諏訪町は処理してあれば、後日燃やすゴミとして収集します)



2 (家屋の損傷がひどく自宅に入れない) 避難所に行かずに車中避難している場合 夜間のトイレを寝室の近くに設置したい場合 トイレの便座が使えない状態の場合

簡易トイレにビニール袋をかぶせて1と同様の処理。能登半島地震では、持ち込まれた発泡スチロール製の簡易トイレが座面が冷たくないという好評だったそうです。



3 避難所へ避難したが既存のトイレは使えない場合

仮設トイレや簡易トイレを避難所のルールに沿って利用します。トイレの掃除も皆で順番をきめて行き清潔を保つようにしましょう。写真は能登半島において避難所内の子供たちのためのスペースに作られたトイレです。子供たちは密閉を怖がるので、ファスナーを3分の1開けた状態で使用していたそうです。



車イスでの避難

逃げ遅れゼロを目指すには、車イスの使用は必須。障害のある方だけでなく高齢で歩行スピードの遅い方の避難には、公会所などに設置された車イスを持ち出し、適切に避難援助できるようにしたい。車イスの構造や補助具の使い方を学び、災害時の車イスでの避難について考える。



感想

補助具を付けることで前にも後ろにも進めるし、段差とかも軽々行けて避難する時便利だと感じた。

災害時のトイレ

風水害による内水氾濫や大地震により上下水道が機能不全に陥った際、水洗トイレが使えない。家庭にある身近な物を使った携帯トイレを作り、臭気対策や衛生面に配慮した、皆が気持ち良く使えるトイレについて考える。



感想

災害時にトイレが安心して使えないと健康被害や衛生環境の悪化につながるので、携帯トイレを備えておくことが大切だと思った。

災害時の食料

この10年で非常食と呼ばれる備蓄食品は、大きく変わりました。定番の乾パンとサバイバルパンを食べ比べながら、もしもの時の食料備蓄について考えます。



感想

非常食のストックについて家族と話したいと思った

令和5年5月18日(木)
下諏訪向陽高校にて
防災教室を開催しました。

消防団・消防署・下諏訪町役場
危機管理室と連携し
2年生185名を対象に
5つのワークショップを
行いました。

土嚢づくり

土嚢を作り、浸水から家や畑を守ることを学ぶ。

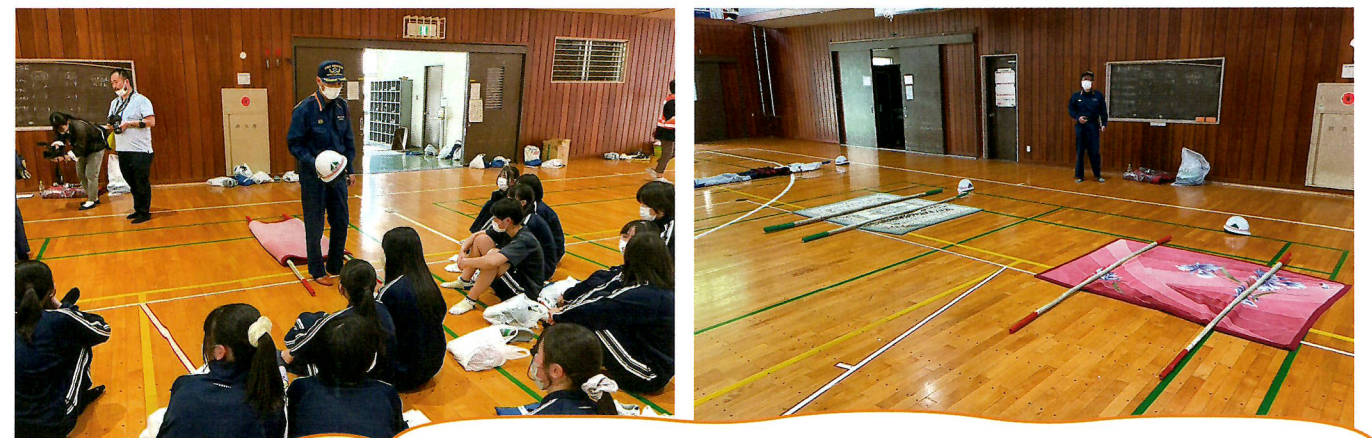


感想

思ったより簡単だった。これなら自分でもできそう。

簡易担架の作成

災害時、動けなくなった負傷者を移送するための担架を手作りする。



感想

大きい毛布と長い棒で担架なんて作れないだろうと思ったけど意外としっかりしていてびっくりした。